

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-51	高等学校	国語科	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	現国714	高等学校 精選現代の国語		

1. 編修の基本方針

1. 近現代のすぐれた文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 現代社会における問題を具体的に扱った教材を意識的に採録して、人間・環境・社会などさまざまな課題に向き合う態度を養うことができるように配慮した。
5. 我が国の言語文化の伝統を深く理解したうえで、言葉によつて的確に理解し、適切に交流する能力をほぐくみ、真に国際的な人間形成を促すことを期した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
理解編 ―思考力, 判断力を 培う―	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のはたらきに理解を深め、語彙や表現を豊かにして、社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けることを目指した(第1号)。 ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによつて、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した(第1号)。 ・「評論のしるべ」を設定して、読書の幅を広げることができるようにした(第1号)。 	p. 42～50 p. 52～59 p. 90～96 p. 152～160 p. 12～17 p. 19～26 p. 18 p. 27 p. 34 p. 41 p. 60 p. 69 p. 80 p. 89 p. 124 p. 135 p. 143 p. 151 巻末口絵
	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を肯定するとともに、多様な価値観について述べた題材を採録し、異なる立場からの意見を尊重する態度を身に付けられるように配慮した(第2号)。 ・働くことや社会生活を送ることについて考察した題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深められるようにした(第2号)。 ・生徒どうしの会話を含む教材を用意し、生徒自らが主体性を発揮して学習に取り組むことを期した(第2号)。 	p. 12～17 p. 19～26 p. 102～105 p. 125～134 p. 136～142 p. 144～150 p. 106～114
	<ul style="list-style-type: none"> ・近代社会の秩序や理念について述べた題材に加えて、情報化の進展、科学技術の発展、消費行動のあり方など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した(第3号)。 	p. 61～68 p. 70～79 p. 81～88 p. 90～96 p. 98～105 p. 116～123 p. 125～134 p. 136～142 p. 144～150

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活など、生徒にとっての実社会と深く関わる題材を積極的に採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした（第3号）。 	p. 106～114
	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、自然、環境といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。 	p. 12～17 p. 81～88 p. 144～150
	<ul style="list-style-type: none"> ・比較文化論・芸術論・言語論を積極的に採録するなどして、我が国の言語文化に対する関心を喚起するとともに、他国の文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮した（第5号）。 ・「評論のしるべ」を設定して、言語文化に対する興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。 	p. 28～33 p. 35～p. 40 p. 42～50 p. 52～59 p. 152～160 p. 18 p. 27 p. 34 p. 41 p. 60 p. 69 p. 80 p. 89 p. 124 p. 135 p. 143 p. 151
表現編 —伝える力を培う—	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを円滑にする技術や教養を身に付け、自分の考えや事柄を国語で適切に伝える能力を伸ばせるようにした（第1号）。 ・目的に合わせて機器を用いたり、情報を収集して適切に扱ったりといった、現代の情報化社会において重要とされる能力を高めることを目指した（第1号）。 	p. 162～192 p. 194～220 p. 172～173 p. 174～175 p. 184～187 巻頭口絵 p. 208～211 p. 212～215 後見返
	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を設定して取り組む態度を養うことができるように配慮した。課題の内容についても、生徒の自由な創造性を伸ばすことを目的にしたものを多く取り入れた（第2号）。 	p. 162～192 p. 194～220
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や地域生活など、生徒にとっての実社会と深く関わる題材を積極的に採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした（第3号）。 	p. 180～183 p. 184～187 p. 188～192 p. 200～203 p. 204～207 p. 208～211 p. 212～215 p. 216～220
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・環境など、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした。（第4号）。 	p. 208～211
資料編	<ul style="list-style-type: none"> ・表記や表現、文字や語彙に関する実用的な資料を採録し、実生活に必要な知識と教養を身に付けることができるようにした（第1号）。 	p. 222～256

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、理解編の各教材の最後に「学習の手引き」「活動の手引き」「言葉の手引き」として課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- ・書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-51	高等学校	国語科	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	現国714	高等学校 精選現代の国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①単元構成・教材選定

- ・国語の資質・能力を育成し、実社会に必要な国語の知識や技能を効果的に身につけるため、全体を「理解編」と「表現編」で構成し、思考力・判断力を育成するための学びと、表現力を育成するための学びとが、それぞれ系統的に行えるように教材を配置した。
- ・「理解編」は、評論、および、実用的な文章を取り上げた。評論はテーマを基本とした単元構成にして、教材どうしが有機的な繋がりをもって学習できることを意図した。
- ・「表現編」は、「A 話すこと・聞くこと」と「B 書くこと」に関わる教材を取り上げ、「現代の国語」の目標に掲げられている、「他者との関わりの中で伝え合う力を高め」るための学びを実現することを意図した。
- ・「C 読むこと」の教材選定にあたっては、生徒の発達段階や中学校の国語科との接続にも配慮しつつ、高校生が身につけておくべき幅広い知識を提供し得る作品をさまざまな分野から厳選し、人間や社会に対する視野や考えが次第に広がり深まるように教材を配列した。
- ・単元の扉に、学習によって身につけるべき国語の技能を「学習目標」として示し、学習指導要領が目ざす[知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]を、見通しを持って学ぶことができるようにした。
- ・作品の冒頭に、それぞれの教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。
→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

②[知識及び技能]への対応

- ・「言葉の手引き」を設定して、「C 読むこと」の内容と関連づけながら漢字・語句・表現・修辞等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・情報と情報との関係については、「C 読むこと」の内容と関連づけながら「学習の手引き」で理解を深めるとともに、「論理分析」という単元を設け、情報どうしの関係性に注目して論理構造を捉えるための方法を示した。
- ・巻末に「資料編」、巻頭と巻末に「口絵」を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。
- ・作品ごとに作者解説を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図るとともに、評論に関しては「評論のしるべ」を設けて、読書の幅を広げることができるように意図した。

③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」に関しては、「言語活動」を主体として教材を設定し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、自分の考えを広げて伝え合う能力を育成することを目指した。教材として取り上げる項目は、「言語活動例」に示された内容に即して選定した。
- ・「C 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
 - *「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所に、内容理解を確認する目的で示した。
 - *「学習の手引き」は、文章全体の構成の把握、構成を支えている論理（各段落のはたらき、段落相互の関係、論展開など）の把握、「学習のねらい」に沿った内容の解釈および評価という、基本的に三つの事柄を行うことを主旨として設定した。
 - *「活動の手引き」は、本文を学習して得た知識や、本文に関連する事柄などをもととして、文章を書いて発表したり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「書くこと」の両方に関わる「言語活動」を行うことを主旨として設定した。
- ・実用的な文章は、実用と活用に重点を置いて、「言語活動」を主体とした課題設定を行った。

2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容								該当箇所	配当時間						
			知識及び技能			思考力・表現力・判断力等						聞話 くこと こと	書 くこと こと	読 むこと こと	計			
章	単元	教材	(1)	(2)	(3)	聞話 くこと こと (1)・	聞話 くこと こと (2)・	書 くこと こと (1)	書 くこと こと (2)	読 むこと こと (1)	読 むこと こと (2)					聞話 くこと こと	書 くこと こと	読 むこと こと
理解編 — 思考力、判断力を培う —	物事の捉え方	「生きもの」として生きる	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.12-17		0.5	1.5	2	
		[評論のしるべ]			ア									p.18				
		「本当の自分」幻想	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ						イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.19-26		0.5	1.5	2
		[評論のしるべ]※以下10箇所			ア									p.27				
	人間と文化	水の東西	ウ・エ・オ・カ	ア・イ・ウ					ア・イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ		p.28-33		0.5	1.5	2
		無彩色の色	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ					ア・イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ		p.35-40		0.5	1.5	2
	論理分析	【対比】「間」の感覚	オ	ア・イ・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア		p.42-45		0.5	0.5	1
		【具体と抽象】日本語は世界をこのように捉える	ア・オ	ア・イ・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア		p.46-50		0.5	0.5	1
	言葉と情報	ものとことば	ア・ウ・エ・オ	ア・イ・ウ	ア				イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ		p.52-59		0.5	1.5	2
		現代の「世論操作」	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア		p.61-68		0.5	1.5	2
	科学と人間	「文化」としての科学	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア		p.70-79		0.5	1.5	2
		生と死が創るもの	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ					ア・イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ		p.81-88		0.5	1.5	2
	論理分析	【事実と意見】「私作り」とプライバシー	オ	ア・イ・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア		p.90-93		0.5	0.5	1
		【推論】AIは哲学できるか	オ	ア・イ・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア		p.94-96		0.5	0.5	1
	生活の中の表現	法律の改正に関わる文章を読み比べる		ウ・エ					ア・イ・ウ	ア	ア・イ	ア・イ		p.98-101		1	1	2
		日本の労働問題に関わる資料を読み比べる		ウ・エ					ア・イ・ウ	ア・イ	ア・イ	ア・イ		p.102-105		1	1	2
		学校新聞の記事内容を検討する	オ	エ・オ					イ・ウ・エ	ア・イ	ア・イ	ア・イ		p.106-109		1	1	2
		図書委員会のポスターの掲示内容を検討する	オ	エ	ア				イ・ウ・エ	ア・イ	ア・イ	ア・イ		p.110-114		1	1	2
	社会と人間	不均等な時間	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ	ア				イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ		p.116-123		0.5	1.5	2
		フェアな競争	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ					ア・イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ		p.125-134		0.5	1.5	2
現代と社会	グローバリズムの「遠近感」	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア		p.136-142		0.5	1.5	2	
	ロビンソン的人間と自然	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ	ア				イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ		p.144-150		0.5	1.5	2	
論理分析	【主張と根拠】デザインの本意	オ	ア・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア		p.152-155		0.5	0.5	1	
	【主張と反論】「動機の語彙論」という視点	オ	ア・ウ					イ・ウ	ア	ア・イ	ア		p.156-160		0.5	0.5	1	
表現編 — 伝える力を培う —	話して伝える	話し方の工夫	イ・カ			ア・イ・ウ							p.162-165	2			2	
		待遇表現	イ			ア・イ・ウ							p.166-167	2			2	
		論理的な表現		ア		イ・ウ			イ・ウ					p.168-171	1	1		2
		情報の探索と選択		エ		ア			ア					p.172-173	1	1		2
		情報源の明示		オ		ア			ア					p.174-175	1	1		2
		スピーチで自分を伝える	イ	エ		ア・イ・ウ・エ	ア							p.176-179	2			2
		相手に伝わる案内をする	イ	エ		ア・イ・ウ・エ	イ							p.180-183	2			2
		理想の修学旅行をプレゼンする	イ	エ		ア・イ・ウ・エ	エ							p.184-187	3			3
		合意形成のための話し合いを行う	イ	エ		ア・イ・ウ・エ・オ	ウ							p.188-192	3			3
	書いて伝える	書き方の基礎レッスン	イ・オ・カ						イ・ウ					p.194-199		2		2
身近な製品の取扱説明書を作成する		イ・オ	エ					イ・ウ・エ	イ				p.200-203		2		2	
実用的な手紙文の書き方		イ・オ	エ					イ・ウ・エ	イ				p.204-207		2		2	
地域の魅力を紹介する		イ・オ	エ					ア・イ・ウ・エ	イ				p.208-211		2		2	
自校の生徒の生活実態を調査する		イ・オ	エ					ア・イ・ウ・エ	ウ				p.212-215		2		2	
社会に対する意見文を書く		イ・オ	エ					ア・イ・ウ・エ	ウ				p.216-220		2		2	
												17	28	25	70			